

平成24年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育企画課

平成24年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後、分析を進めながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

実施対象

生徒	全ての県立高校（全課程）の卒業年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
学校評議員	「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校37校（対象校は別紙参照）の学校評議員
新タイプ校教員	「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校37校（対象校は別紙参照）の常勤教員

実施時期

平成24年12月～平成25年3月

集計の区分

生徒、保護者向けのアンケートは、入学時の区分で実施している。

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	98	鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、瀬谷、瀬谷西、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、磯子、氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、大楠、逗子、逗葉、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、寒川、平塚江南、高浜、大原、大磯、二宮、秦野、秦野首屋、伊勢原、伊志田、西湘、足柄、大井、山北、厚木、厚木東、厚木北、厚木西、海老名、有馬、愛川、大和、大和南、大和東、大和西、座間、綾瀬、綾瀬西、麻溝台、上鶴間、相模大野、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、城山、津久井
		単位制	11	神奈川総合、横浜旭陵、横浜桜陽、横浜栄、川崎、三浦臨海、平塚湘風、小田原、厚木清南、藤沢清流、相模原青陵
	総合学科	単位制	11	鶴見総合、横浜緑園総合、横浜清陵総合、金沢総合、大師、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合、相模原総合、吉田島総合
	専門学科	学年制	16	神奈川工業、二俣川看護福祉、商工、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、横須賀工業、藤沢工科、平塚農業、平塚工科、平塚商業、小田原総合ビジネス、小田原城北工業、厚木商業、中央農業、相原
単位制		5	横浜国際、横須賀明光、海洋科学、神奈川総合産業、弥栄、	
定時制	普通科	学年制	7	横浜翠嵐、希望ヶ丘、横須賀、追浜、茅ヶ崎、伊勢原、津久井
		単位制	5	川崎、小田原、厚木清南、湘南、相模向陽館
	総合学科	単位制	5	磯子工業、向の岡工業、平塚商業、秦野総合、神奈川総合産業
	専門学科	学年制	3	神奈川工業、平塚農業初声分校、小田原城北工業
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

実施対象者数及び回答者数

生徒の回答者数及び回答率

区分		対象者数	回答者数	回答率
全日制	普通科	学年制	27,050 名	23,028 名 85.1 %
		単位制	2,627 名	2,008 名 76.4 %
	総合学科		2,702 名	2,024 名 74.9 %
	専門学科		4,387 名	3,774 名 86.0 %
定時制		1,090 名	761 名 69.8 %	
通信制		463 名	206 名 44.5 %	
全体		38,319 名	31,801 名 83.0 %	

保護者・新タイプ教員の回答者数及び回答率

	対象者数	回答者数	回答率
保護者	38,319 名	13,651 名	35.6 %
新タイプ校教員	2066 名	1,515 名	73.3 %

結果の概要（次頁以降）

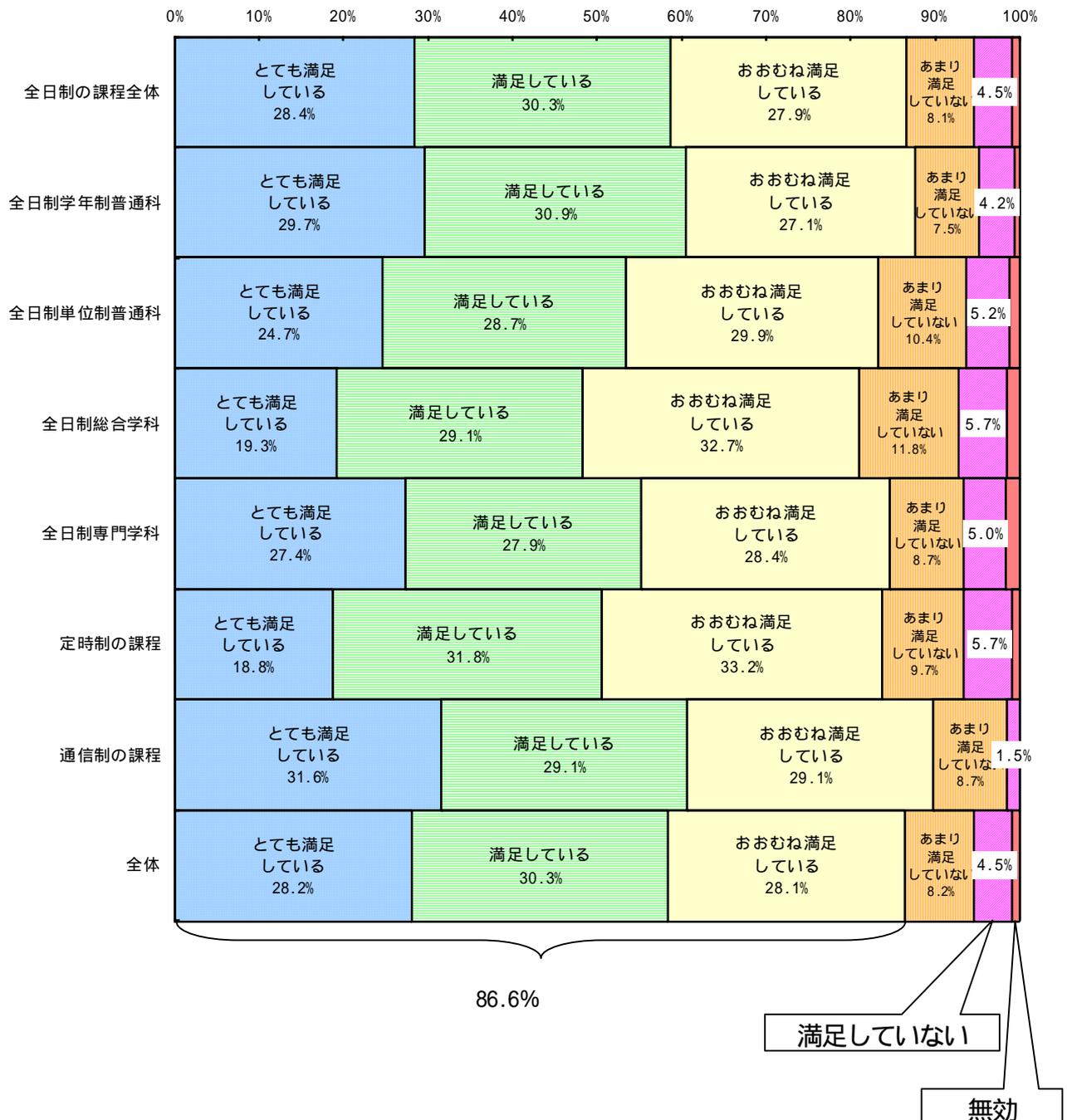
- 1 生徒向けアンケート結果
 - （１） 高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。
 - （２） キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか。
 - （３） 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか。
- 2 生徒と保護者の満足度の比較
- 3 学校評議員からの意見
- 4 新タイプ校教員向けアンケート結果

1 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

(1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。

「高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。」という設問に対して、「とても満足している」「満足している」「おおむね満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の86.6%となり、平成22年度（85.2%）、平成23年度（83.8%）に引き続き高い水準で推移している。



(2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか。

「生涯を通じた自分の生き方・あり方について考え、勤労観・職業観を身に付けるための教育（キャリア教育）により、自分が成長できたと思いますか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の80.5%となり平成22年度（74.4%）、平成23年度（77.9%）と、その割合は年々高まっている。

全日制の課程の満足群は、専門学科84.5%（同82.5%）が、総合学科80.5%（平成23年度80.9%）、学年制普通科80.3%（同77.2%）、単位制普通科77.4%（同76.0%）に比べて若干高い割合になっている。



(3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか。

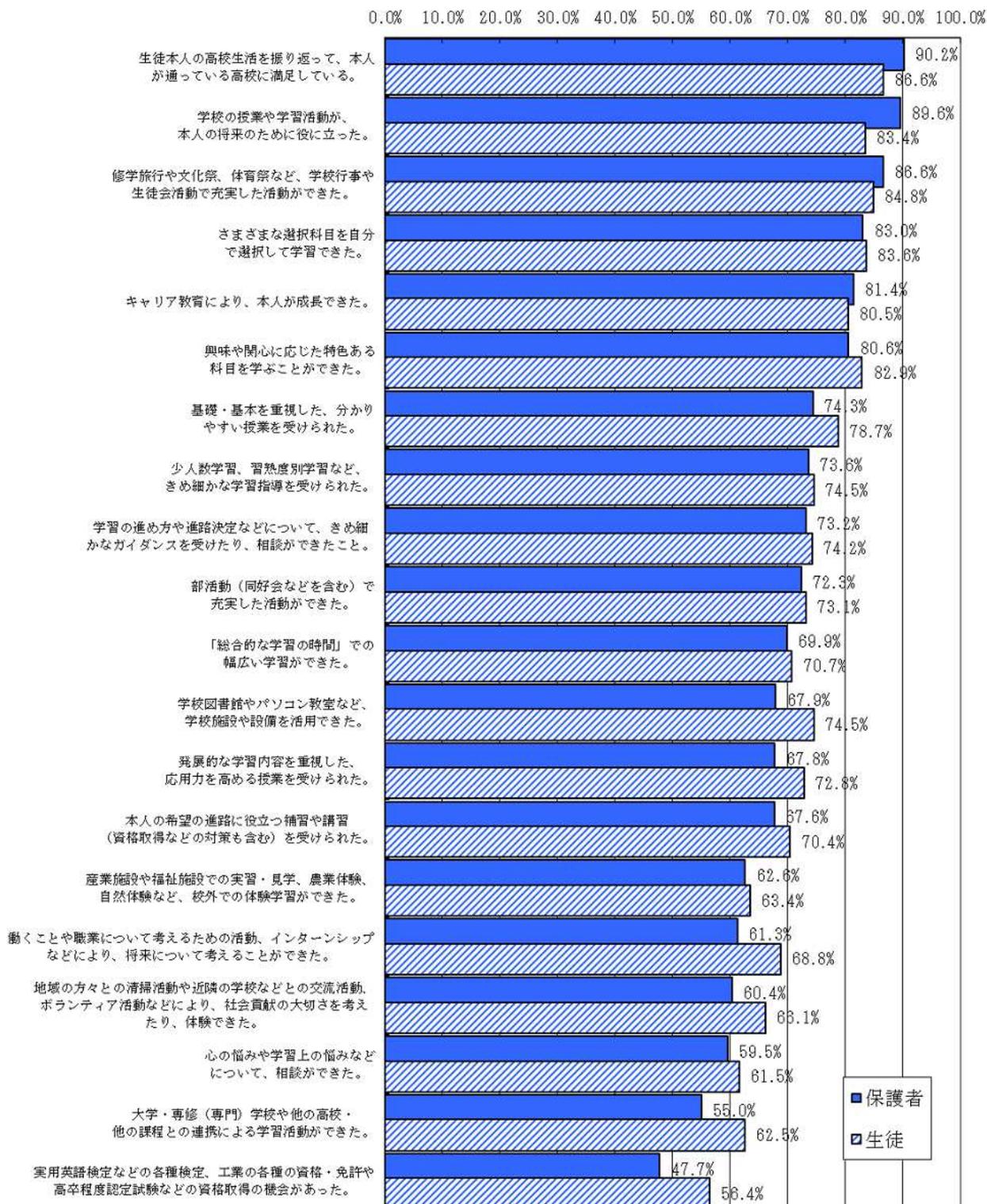
「学校の授業や学習活動が、将来の自分のために役に立つと思いますか。」という設問に対して、生徒全体の満足群は83.4%で、平成23年度（80.7%）に比べて若干高い割合になっている。（平成22年度は81.1%）。

学校種別では、全日制専門学科の満足群が85.4%（平成23年度は83.2%）及び通信制の課程の満足群が87.4%（平成23年度は81.0%）と高い割合になっている。



2 生徒と保護者の満足度の比較

生徒と保護者共通の設問について、それぞれの満足群を比較した。「生徒本人が通っている高校に満足していますか」という設問に対する保護者の満足群は90.2%と、生徒の満足群（86.6%）より高い割合になっており、平成23年度の保護者の満足群（91.1%）と同水準で推移した（平成22年度は91.7%）。その他の項目においては、生徒の肯定群と保護者の満足群の割合が、同じ水準となっている。その一方で「学校の授業や学習活動が本人の将来のために役立った」との設問は、保護者の満足群の割合が生徒の割合よりも6.2ポイント高くなっている。また、逆に保護者の満足群の割合が生徒の割合より7.0ポイント以上低くなっている項目は3項目であった。



3 学校評議員の意見

【対 象】「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの県立高校43校の学校評議員

【対象校】別紙参照

【内 容】新校についての印象や新校に期待することなど、新校への意見

【意見集約の方法】各学校において、学校評議員会を通じて伺った意見を取りまとめた。

(1) 学びのしくみ、授業改善等について

生徒による授業評価の結果が割と良いと感心している。分かりやすい授業が展開されていると思う。

問題行動の未然防止への工夫等を聞き、きめ細かな対応をされていることがよくわかった。

グループ目標の資料から、教員がグループ、年次など様々な枠組みの中で協力しながら学校業務をされていると感じた。

授業公開や生徒による授業評価をより積極的にやってほしい。

グループディスカッションを取り入れた問題解決型・参加型の授業は生徒に人気があり授業評価も高い。グループの作り方は難しいが、活用してほしい。

単位制であることから、クラス活動の希薄さは仕方ないが、生徒同士が話し合うことは大切であると思う。そのような機会を提供することで協調性を養うことができると思うので、ぜひ伸ばしてほしい。

授業研究については、小中の連携を参考にしてほしい。小学校でのグループ指導や中学校における様々な指導を実際に見学することによって得られることも大きいのではないかと思う。

授業力の評価は、生徒へのアンケートなどでも差がつかず難しい面があるが、生徒の理解度など、評価の観点を明らかにして、できるだけ掘り下げて見ていく必要がある。

図書館の授業利用が増加したことについて、インターネットに頼らずに参考文献を使うようにしてレポートで署名を記入させると高い学習効果が得られるので授業と図書館とのコラボを促進してほしい。

(2) キャリア教育について

課題研究発表会を参観して二つの点に感心した。一点目は、プレゼンテーション能力に優れている生徒がいるということである。聞いている人に理解してもらおうと話し方や資料を工夫している生徒が見受けられた。二点目は、1、2年生が3年生の発表を聞くということである。これはキャリア教育の視点からもよいことである。

挨拶しても挨拶を返さないなど、挨拶のできない生徒が増えているように思う。モラルやマナーを育成するため、キャリア教育に取り組んでいるが、さらなるレベルアップが必要ではないか。

キャリア教育には地元の人材をうまく活用して、効果的な学習が行えるようにアイデアを出していきたい。

これまでの努力によりインターンシップやボランティア活動が定着してきていることを高く評価する。これからも一層の充実拡大を願っている。

キャリア教育はマンパワーが必要な分野であるが、他機関や学校外スタッフの支援を受けながら、教職員で対応できる部分での努力、工夫に期待する。

進路指導についても生徒の個性を充分熟知の上、指導体制の整備を図ることを望む。

キャリア教育についても、「生徒による授業評価」の検証方法と同じスキームで、学校目標・グループ目標・具体的な取組みをより有機的に検証・評価できるように工夫できるとよい。

生徒がいつでもさまざまな悩みを相談できる体制が整えられている。

自己管理ノートは存在意義が高まっており、大変重要な取組みである。分析能力が身につく。自己目標に向けての生徒への指導法を確立してほしい。担任の先生方は、指導がピンポイントでできる。大学でも資格を取得できる学生は自己管理がよくできている。大学にも参考になる試みである。

(3) 地域社会との連携や高大連携、体験活動について

学校目標に「地域との連携」を掲げているのは地域としてもありがたい。地域の防災訓練、運動会や盆踊りなど地域の催物に高校生も参加してほしい。

近隣の小学校でのお話会等、地域貢献活動を活発に行っていることや生徒の素晴らしい活動を地域の方々に知らせしてほしい。また、地域との連携を日頃から積極的に行うことで災害時に助け合いがしやすくなる。地域連携を大切にしていきたい。

多様な教育活動を展開して、特に学校外の活動への参加は非常に有効だと思う。しかし、こうした取組みに積極的に参加していない生徒もいると思われる。ぜひ多くの生徒がそのような機会に参加できるようにお願いしたい。

ボランティアに関する地域の情報を積極的に収集することも大切かと思う。

ボランティア活動を実践し、地域や社会とよく交流している。地域ボランティアについては、目標設定や取組内容に生徒の意見を取り入れ、意識・参画感を高めてはどうか。

地域との連携は重要である。地域の方との触れ合いのなかで様々な年代と関わりを持ち、そのことで生徒は自信を持つことができる。

地域貢献活動の質量とも素晴らしい。さらに高大連携の拡張の可能性を探してほしい。

防災訓練については地域との協働を推進していきたいと考えている。地域のお年寄りの救助を高校生にもお手伝いしてほしい。

(4) 広報活動について

ホームページが充実していることに驚きました。これからも地域を支える高校として区と連携していただければ助かる。

ホームページは見やすくなり、開かれた学校づくりをめざす先生方の思いが伝わってくる。

単位制普通科という学校については、まだまだ地域その他の人に十分には周知されていない印象である。地元の公立高校には栄えてほしいと願っているので学校説明会などの機会を利用して広報活動にも力を入れてほしい。

大学のオープンキャンパスでも学生が語る場面を多くしている。大学の魅力を知っているのは、今在籍している学生たちであり、彼らの実際の声を聞かせると説得力が違う。学校要覧に入学生や保護者のアンケートの結果が載っているが、こうした生の声を積極的に広報活動に活用するとよいのではないか。

生徒による授業評価をきちんと実施している。大学でも実施し、様々な面で評価されている。どのような観点で行うかで、学校の特徴が出る。教育目標につながるものである。今後も充実したものになるよう取り組んでもらいたい。

4 新タイプ校教員向けアンケート結果

【対象】「県立高校改革推進計画」に基づき、平成15年度～平成22年度に開校した、新しいタイプの県立高校37校の常勤教員

【対象校】別紙参照

進路に関するガイダンス、資格取得による単位認定についての情報提供や、生徒に興味・関心を持たせる授業、校外講座の聴講による単位認定では「十分にできている」「できている」「概ねできている」と回答した「達成群」が85%以上あり、校種の特徴を活用し、多様な学習機会の拡大や生徒一人ひとりのニーズにより一層きめ細かく対応した取組の成果といえる。

一方で、「生徒の興味・関心や進路希望に基づいた、新タイプ高校の校種の長所の活用」、「校外学習や地域との連携など、地域の教育資源を教育活動へ活用する能力」についての達成群が約74%、75%（平成23年度は約71%、約73%）と、やや低い結果となった。

肯定群とその内訳の合計は、端数処理上、一致していない場合があります。また、内訳の合計が100にならない場合があります。

